

学校だより 1月号



東深沢

令和8年1月7日
みしまの森学舎
世田谷区立東深沢小学校
校長 奥長 英樹



半歩先の その先に

校長 奥長 英樹

2026年になりました。旧年中は、本校の教育活動にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございました。保護者・地域の皆様に支えられ、子どもたちを健やかに育てる学校運営を進めることができました。2026年も教職員一丸となってより良い学校生活を営んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

子どもたちに、また学校教育に望まれることの一つとして、‘生きる力’の育成が以前より上げられています。‘生きる力’は、これからの予測不能な未来に向けて、‘生き抜く力’とも言われます。子どもたちがそれぞれの未来を‘生き抜く力’をいかに育成していくか、それは現代の学校教育の大きな課題であり、その育成が学校の使命でもあると考えます。‘生き抜く力’を育てるために小学校の6年間で大切なことは、日常の中で自分にとって少しだけ困難なことに挑戦する姿勢だと思います。今年の箱根駅伝で史上初となる2度目の三連覇を達成した青山学院大学の原晋監督の言葉の一つに、「重要なのが、目標は一步先ではなく、半歩先で設定すること。そうすることで、一つひとつ確実にクリアすることができるようになる。達成感を味わうことがとても大切。」とあります。一人ひとりの意欲やモチベーションを大事にする言葉であり、人を育てる立ち位置として大切な言葉と考えます。何が少しだけなのかは、一人ひとり違います。その子にとっての少しは、他の子から見たらわずかなものかもしれないし、とても大きなものかもしれません。だからこそ、一人ひとりをしっかりと見て、少しだけ困難な挑戦に共に向かい、それを達成し、また次の少しだけに向かう、そういうサイクルを繰り返していくことが大切なのだと思います。学級学年集団にとっても同様です。課題に向かっていくこと、そして協働しながら達成や成長を大切に積み上げていくことが、大きな成長につながるのだと思います。これから大人になったときに向き合う課題に立ち向かっていけるように、今の小さな挑戦が大切だと考えます。

昨今、『ウェルビーイング』な社会の実現と、言われます。学校教育においても大切な概念であることは間違いありません。『ウェルビーイング』は次のような意味とされます。

「身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること」であり、「心身ともに満たされた状態」この考えの起源は1946年の世界保健機関(WHO)の憲章にさかのぼりますが、国の生活指標や、企業の働き方の在り方など、様々な指標としても示されることが多くなりました。PERMA(セリグマン氏提唱)と呼ばれる5つの要素(Positive Emotion:ポジティブ感情、Engagement:エンゲージメント充実感、Relationship:関係性、Meaning and Purpose:人生の意味や仕事の意義・目的の追求、Achievement/ Accomplish:何かを成し遂げること)を示したものと、よりよい社会、よりよい働き方、よりよい生活に向かう指標などが示されています。これまでも増して社会が大きく変化し、多様性の尊重が叫ばれる中、『ウェルビーイング』の実現は重要です。しかしながら一朝一夕に成しえるものではありません。今を充実して生きるその連続が、困難なことに向かう力となります。未来は、半歩先を目指して取り組む、その積み重ねの先にあるものだと思います。

午(うま)年の今年、飛躍の1歩を目指して、半歩先の目標を達成していけるように取り組んでいきたいと考えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆1年1組学級担任として、3学期から永井 愛子(ながい あいこ)教諭が着任しました。また、1学年主任には、森田 翼主幹教諭が学年付となり担います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

